

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21年10月 22日
調査実施の時間	開始 13時 30分 ~ 終了 17時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	多機能地域ケアホーム ありがとう (広島県)
評価調査員の氏名	氏 名 高橋 章
	氏 名 土谷 静子
事業所側対応者	職 名 管理者
	氏 名 木之下 美恵
	ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定していません。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503221
法人名	(株) QOL サービス
事業所名	多機能地域ケアホーム ありがとう
所在地	広島県福山市春日町浦上1205 (電話) 084-948-6638
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 21 年 10 月 22 日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

作成日平成 21年10月30日

自然に囲まれ閑静な地に建てられた事業所である。近くに大きな公園があり四季折々に花が咲き季節を感じることができる。利用者一人ひとりに職員は尊厳をもって関わり、お互いに支えあい、共に認めあっている。家庭的な雰囲気の中、利用者・家族・職員との連携も深まり、良い関係が出来ている。ボランティアの受け入れも定着し、地域との交流も密となり、地域密着型の事業所として医療機関との連携も図られ、今後は安心と充実したターミナルケアに向けた目標を持ち、職員一丸となって取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

情報提供票より】21年 9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 1 月 11 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 19 人 非常勤 3 人 常勤換算 21,3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り
	2 階建ての ・ 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費 (月額)	30,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (八店一時立上り)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

4) 利用者の概要 9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	7 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86,38 歳	最低	73 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石原内科医院 ・ 中村整形外科医院 ・ 三愛病院
---------	--------------------------

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	<p>前回は改善課題がなかったが、外部評価の結果は職員・家族・運営推進会議で報告を行い理解を得ている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価票を全職員に回して意見を書き入れてもらい、それぞれの意見を職員間で話し合い、管理者がまとめ、自己評価を作成した。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	<p>2ヶ月に一度、利用者の家族・地域住民・民生委員・福祉を高める会や学区ボランティアの会の代表・地域包括支援センターや市介護保険課の職員等、幅広い立場の人が参加する会議の場として、率直な意見をもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。利用者の暮らしぶりや事業の内容を40~50枚のスライドに仕立て、会議の都度作り変え報告している。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	<p>家族の訪問時には声かけをし、利用者の暮らしぶりや健康状態を話し合う中で意見や要望を聞くようにしている。家族が意見・苦情を気軽に表せる機会として、運営推進会議やランチ宴会を設け、その場で出された意見等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	<p>町内の夏祭りや地域の福祉施設の夏祭りに参加したり、事業所内の他の施設と共同で子供祭りや文化祭を開催し立ち寄ってもらう機会を設けたり、事業所見学会を地域要望に応じて開催したり、地元住民との交流に積極的に取り組んでいる。また、月1回、公民館の「いきいきサロン」に利用者と一緒に参加している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者自身の生きて来た環境から、その人らしい目標を持って、毎日笑顔で和みある生活を送っていただけるようお手伝いをしていくことを、事業所独自の理念に掲げ、感動を生むケアの実践に取り組んでいる。		これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念となっていることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス・ミーティング等で理念を共有し、利用者が幸せと思えるような笑顔のある、ケアに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りや地域の福祉施設の夏祭りに参加して、地元住民との交流に積極的に取り組んでいる。また、月1回、公民館の「いきいきサロン」に利用者と一緒に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に回して意見を書き入れてもらい、職員の意識あわせをした上で、管理者がまとめ、自己評価した。外部評価の結果は職員・家族・運営推進会議で報告をして、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族等・地域住民・民生委員・地域包括支援センターや行政の職員等、幅広い立場の人が参加する会議の場として、率直な意見をもらい、サービスの質の向上を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度に入り、介護保険課の職員が運営推進会議に参加してくれるようになり、共に取り組んでいく体制が出来た。運営推進会議以外でも市担当者との関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を話し合っている。定期的に利用者一人ひとりの通信を本人だけの写真を載せて作り、各家庭に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見・苦情を気軽に表せる場や機会として、運営推進会議やランチ宴会を設けている。出された意見はミーティングで話し合い、運営に反映されるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が交代する場合は、利用者へのダメージを最小限にするために、日頃から馴染みの関係を築くよう、お互いのユニット間を往ったり来たりして交流している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員育成の重要性を認識し、各職員の立場、経験や習熟度の段階に応じた学びの機会を仕事の一環として確保している。事業所内外の研修とともに、職員が働きながら技術や知識を身につけていくことを進めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った他の事業所と交流を図り、互いに相談対応できる関係維持に努めている。包括支援センターの計らいで、近隣の事業所と交流をし、日々のケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族が事業所に遊びに来てもらうことから始め、昼食を一緒に食べたり、家族との連携密にして、試しに泊まってもらったりして、徐々に雰囲気に馴染んでもらうように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意分野（調理を教えてもらう、子供のことを相談する...等）を引き出すように、声かけ等を工夫し、支えあう関係作りに配慮している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の部屋を訪ね1対1でゆっくり話を聴くようにして、言葉や表情からその真意を汲み取り把握しようと努めている。家族からの聴き取りで情報を得るようにしている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・職員と話し合い、思いや意見・要望を聴き、反映させるようにしている。チェックシート等を参考に、職員全員で意見交換やミーティングを行い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の急な状態の変化に応じては居合わせた職員で話し合い、家族に電話連絡をする。その後、全職員で新たな介護計画を作成している。変化の見られない利用者でも3ヶ月をめどに見直す取り組みをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人のその時々要望（墓参りに行きたい...等）や利用者個々のかかりつけ医の受診等にも家族の都合に応じて、柔軟に対応している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に家族の状況に応じて事業所が受診支援をしている。新たに個々のかかりつけ医と事業所の関係が築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について書面にて希望を聴取し、かかりつけ医・家族・職員同席のもと、納得のいく対応を考え、方針を決定している。職員はターミナルケア研修に参加し、それを活かしたターミナルケアを体験された。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1．その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴・排泄等のプライバシーは確保している。利用者への言葉かけや対応は尊厳を損なわないように丁寧である。個人情報の漏洩防止、職務上の守秘義務の徹底を図るための研修を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間も5時から9時までの間に自由にしてもらっている。入浴時間も利用者の希望にそって支援している。利用者一人ひとりのペースに職員が柔軟に合わせていく姿勢を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
	23	57	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
	25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
	27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		年2回の避難訓練は実施されている。特に夜間を想定した訓練について、地域住民の参加、協力を得ながら、消防署等と連携した避難訓練、避難経路の確認を行う等の取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みの食べ物・飲み物がとれるように支援している。いろいろな機会をとらえて水分補給を促し、身体状況により、ゼリー状にするなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての共用生活空間は安心して居心地よく暮らせるように、壁のディスプレイ・ウッドデッキの草花・庭の果樹・ボランティアによる季節の花生け・ソファ等のかつらぎのスペースなど、随所に工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのものをできるだけ持参してもらい、個々に合わせた工夫をされている。部屋に写真等を飾り、その人らしい環境作りを支援している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ありがとう（ユニット1）

評価年月日 2009年 10月 22日

記入年月日 2009年 9月 25日

記入者 代表/管理者 氏名 木之下 美恵

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	恵まれた環境を生かして全体理念である感動を生むケアの提供を目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パーソンセンタードケアの考え方を基盤に、リーダー・サブリーダーを中心に自覚してミーティング・カンファレンスが行われている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は各ユニット内で目に届きやすい位置に設置しており、社内誌を家族・各公共施設・地域住民の方々に配布・回覧している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方から農作物を頂いたり、開所以来の庭の手入れのボランティアの他、調理、傾聴ボランティア等も来てくださっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会夏祭り、近隣障害者施設夏祭り、月1回の公民館いきいきサロンに定期的に参加している。		隣接している小規模多機能施設と共同で、子供祭り・文化祭等、地域の方々に立ち寄っていただける機会を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所見学会を地域の要望により実施		突然の介護相談にも介護アドバイザーがいるため、助言・対応が可能である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、職員を含めご家族にも送付、運営推進会議でも報告している。		自己評価することで、自分たちの日々の対応を振り返る良い機会と捉えてゆきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方、ご家族から活発な意見を聞き、改善を行いながらサービスの向上を心がけている。		市役所の方の出席を毎回お願いしたり、地域の学校・保育所・派出所なども出席の依頼をしてゆきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターを通じて、市の援助内容を聞いたり、出来るだけ直接市役所に出向いていきたいと考えている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	経営者とその他に3名のケアマネがあり、研修に参加している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で問題を共有、ストレスの軽減を図り、虐待防止に努めている。		虐待の勉強会を定期的に関く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を口頭により説明し、納得される対応を心がけている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。面会時の聞き取りもしている。		定期的にご家族にアンケートをとって、ご意見を聞くようにする。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月生活状況・ありがとう通信をご家族に送付している。突発的な健康状態の変化については、その都度報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、各種行事などご家族参加の機会を作り、気軽に訪問していただける環境を心がけている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダーミーティング、ユニットミーティングを設け、職員の意見の抽出を図っている。		リーダーミーティングの他、随時各施設の管理者・代表者が集まって、意見交換の機会を増やしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の行動に合わせて、勤務時間帯を配慮している。利用者の状況変化、職員の急病に備え、職員を多く配置している。		状況に応じて、他部署のスタッフの応援もあり、利用者の要望に答えやすくなっている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間は常に交流し、関連施設相互の協力体制を整えている。		職員異動により、他部署でのグループホーム利用者への理解を増やし、システム連携を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度末、ありがとう学会にて発表。全国レベルの研修参加、海外研修(毎年1 - 2名)、GH学会発表(3 - 4名)、認知症ケア学会発表(2 - 3名)		OJTによるスタッフ育成の充実。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修により交流を図り、互いに相談対応できる関係維持に努めている。		スタッフ間交流事業として、スポーツ・イベント・編集・園芸、それぞれの各委員会を設けて活動し、親睦を深めている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	体調により年休利用、年間10 - 14日のリフレッシュ休暇、個人の状況に応じて他ユニット間・施設内異動も考慮している。		スタッフ休憩室改築予定。当施設内異動、個別面接を随時。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を推奨している。個人の状況により、個々に合った勤務場所をスタッフ本人と共に考え、安心して働き続ける事が出来る配慮をしている。		今年度、奨学金援助による看護師資格取得中。来年度も実施予定。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネ、御家族に直接面談、見学に来ていただき、本人との面接には2名スタッフでご訪問し、御本人の様子を十分聴く努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族の協力なくして本人を支援していくことは難しいという事を共有して、十分な話し合いを度々設けて対応を検討。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞いた上で費用等も説明。場合によっては特養・老健へ再検討をお話することもある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスからGHへのサービス利用を変更された利用者については、入所当初から時々デイサービスで過ごされ、なじみのスタッフにも声をかけていただいている。		やむを得ずサービスをいきなり開始する場合は、御家族と細かく連携をとりながら、無理のない声掛けと細かい配慮を工夫中。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの役割づくりを考えながら、その作業の中で共に泣き笑いできる関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を考え、共に本人を支える一員として相談できる関係に努めている。		当施設内外の夏祭りや、行事への参加を御家族に呼びかけて、一緒に楽しんでいる。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一泊・日帰り旅行、バーベキュー、外出等、全員又は個別で希望以外にも協力により実施。		旅行については、御家族も含め希望を聴取し、個別に対応している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の方々がゆっくり本人と過ごせるように別室もある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	声を掛け合って共に生活し、共同作業したりすることで、仲間意識が根付いている。		利用者同士の関係が適合しない方については、スタッフとの個別対応等、配慮している。利用者同士の相性等も配慮。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀のはがき送付、病院入院または施設入所で退所となった利用者様へのお見舞い・訪問を定期的に行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、御家族と個別に話をしている中で、何気ない一言、表情に気をとめながら、本人の思いを把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人・御家族・担当ケアマネ・主治医から情報をお聞きし、生活歴・アセスメントの作成(センター方式)。随時情報を頂き、加えている。親族・友人からの情報も貴重である。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の体調・心情の変化をスタッフが十分に観察し、一人一人その都度寄り添うよう対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	平素より本人の希望聴取に努め、家族と共に相談し、介護計画を作成・実施。		3ヶ月に1度、定期的に本人・御家族・スタッフ2人でカンファレンスを行い、モニタリング・計画作成をしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人(出来る方)・御家族・スタッフによりカンファレンスを実施し、同時に今までのモニタリングやそれを基に、介護計画を立てている。		状況に応じて、柔軟にプラン項目を変化させてゆく。御家族からの要望を聞き、出来る方には協力をお願いをして、家族と共に目標を達成する事もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は本人の生の声を記入するようにしている。いつもと違う状態の変化(良い事・あまりよくなかった事)に注意する事などは申し送りに記入して、職員に伝えている。		改善ケアプラン使用。アセスメントがその方の思いや生活史がより反映されるものができる。記録も記入しやすく、わかりやすくなった。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自社内、各種施設の利用。隣接デイサービスへの訪問		デイサービス・小規模多機能居宅介護との人的・物理的・システムの連携
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の園芸ボランティア、図書館等公共施設の利用等で支援している。		傾聴ボランティアさんが増え、利用者様に喜ばれている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	インフォーマルなサービスについて、関係者からの情報・助言を受けている。福祉用具(車椅子)自費レンタル中。訪問マッサージ・訪問歯科利用中。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになってもらい、ホームの取り組み状況を報告するとともに、アドバイスを受けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のみならず、本人・家族の納得した医師を選択できるよう配慮。		近隣の複数の医療機関より多大なる協力が得られ、いざという時の安心感につながっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃の暮らしぶりから、専門的な受診が必要であれば、御家族に相談して専門医受診を同伴にて行っている。		専門医と主治医との連携をとりながら、総合的に支援している。認知症について相談できる関係を築く。記録は個々の状況に合わせて、様式を変えている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職のほか、両ユニットに看護職が定期的に入り、日常の健康管理を行っている。		「グループホームでの医療について」という基盤を作成し、緊急時の対応についても御家族に個別に相談し、理解・協力をいただいている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	一ヶ月以内の退所に向けて、入院時より医師との連携を相互間で図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全員書面にて、御家族より希望を聴取。医師・家族・スタッフ同席のもと、納得のいく対応を考え、方針を決定している。		ターミナルケア研修への参加。ターミナルケアの振り返りを十分に行い、今後のよりよいお見送りに生かす。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師のパート雇用により、常勤看護師の応援を図っている。医師とも協議。ホーム内看護師不在時の点滴対応も協議し、マニュアルを作成した。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・御家族に別の転居可能な施設を紹介し、希望する複数の施設見学を行い、本人・御家族中心となって決定している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入浴・排泄等のプライバシーの確保等、十分な配慮をしている。職務上の守秘義務については、書面にて誓約書をとっている。シュレッターの使用。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の気持ちに寄り添う時間を大切にしている。自分で選択出来る場面づくりに気をつけている。</p>	<p>利用者様が充実した生活を送っていただけるよう、スタッフが知恵を出し合って新たな作業や楽しみを提案し、無理なくやりたいと思える事を増やしてゆきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人に精神負担とならない配慮の中で、それぞれの生活リズムを作っておられるので、それを支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>特に体調に問題がない限り、それぞれ理美容院へ外出支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人の能力に合わせて、食事作りの準備・片付け等を依頼している。</p>	<p>嚥下機能が低下しても、食事の形態を工夫し、見た目にもおいしそうなソフト食作りを考慮していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の体調に合わせて、本人好みの物を共に作ったり食べたりして、楽しむ機会を作っている。本人と共に買い物に出かけたりしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	出来るだけ様々な食品を考えながら、マッサージ、またそれぞれの排泄記録・管理により、日中出来るだけ布パンツ・パットの利用をしながら、トイレ誘導を行う。		体に負担をかけない排便薬の使用も併用している。 (随時、内服量は調節)
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	本人の希望により、午前・午後いつでも入浴可能としている。本人のタイミングにあわせている。しかし、介助を必要とする方には、スタッフ数が少ない時は入浴してもらえない時がある。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	本人の状況により、午前中・午後からも各居室で、またはくつろげるスペースで、休息できる支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	本人の特技の料理・裁縫等を依頼。畑の収穫、保存食・梅ジュース・らっきょう等手作り、また、抹茶の日、おやつの買い物等、自主的活動を依頼。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	可能な方には自由に買い物をしてもらい、一定範囲での自己管理を支援。また、買い物に行き支払いを依頼している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	庭(テラス)での外気浴、外出等、頻繁に出来る限りの対応を心がけている。テラスが北と南にあり、外気浴が選べる。		今後も各所への季節を感じる外出・ドライブ・公園散歩・買い物等、続けてゆきたい。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	家族との旅行を毎年実施。本人の行きたい所への外出支援、本人・ご家族の希望を最優先して対応。		今年度中に、利用者様・ご家族参加のランチ宴会を計画。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の書中見舞い・年賀はがき作成をご家族に協力依頼。コードレスホンの使用により自室での電話対応も可能。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間規制はなく、和室、回想ルーム等、必要に応じて居室以外の部屋の利用も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。		勉強会の実施（DVD・参考資料）。言葉による拘束についても留意している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外施錠はしていない。必要があれば、SOSネットワークに登録・ご家族了解の上、交番・近隣スーパー等に写真入の連絡先を配布している。自由に外出出来、スタッフの見守り、同行により、安全を確保できるよう努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の居場所に留意し、スタッフ間で声を掛け合っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品管理について、手の届かない場所に置く等、十分な注意をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険度を把握し、色別のヒヤリハット用紙による事故報告の記入により、スタッフ全員で問題を共有。必要に応じて対策ミーティングを開催。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防署の職員により救命救急講習を実施している。AEDを各棟に設置。		定期的な救急講習会の実施。緊急時マニュアルを作成している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の家族。 スタッフ等の協力を依頼。		H21年度自主防災訓練では、近隣の住民の方にも消火訓練に参加していただいた。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	全ての危険因子を排除するのではなく、本人らしい生活を優先しながらリスク管理のもと支援している。常に説明をし、必要なものを購入している、		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・排泄・食事等日々の利用者の状態に気を配っている。異変に気付いたら、速やかに情報を共有し、主治医に相談している。(体調変化を密に正確に連絡したい場合は、長期にわたりFAX・写真にて状態報告)		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服中の利用者の体調を十分に把握するように努める。病院からのお薬情報を把握する。		内服拒否のある方にも、できるだけ理解を得られる言葉がけをしたり、アイス・オリゴ糖に混ぜて飲みやすくして支援している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖・寒天・ゼリー等、繊維食品や水分摂取をしていただくように根気よく援助している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	特に本人の拒否がない限り、口腔ケアを実施している。必要な時は、訪問歯科医のアドバイスを受けている。		毎食後の口腔ケア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を見ながら補助食品を利用したり、食べれるもの・好きなもので補給。水分もゼリー状にして随時補給。		摂取量・体調・嚥下状態に応じて、形態を変え、タイミングを見ながら介助している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルがある。感染症に関する資料を配備している。衣類の別洗浄や、除菌処理をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間時、台所用品の熱湯消毒と除菌。残食は持ち越さない。食器乾燥機の使用。冷蔵庫内の定期的なチェック。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場近くの出入り口に、案内板を提示している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁のディスプレイ。ウッドデッキの草花。庭の果樹。ボランティアさんによる季節の花生け。浴室の暖簾。ソファなどのよるくつろぎのスペース。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースを利用者さんのADL変化によって配置換えを検討し、混乱がおきない程度で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今まで使用してきたものを持参。本人のADLを考慮しながらくつろげるよう、環境作りをしている。畳部屋も有り。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高性能空気清浄機を2台設置。換気の随時実施。壁は吸臭作用・湿度調整出来る珪藻土使用。		エアコンの・換気扇のクリーニングを定期的の実施中
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを、廊下のみならず必要な居室にも、動線を考慮して配備している。必要な方には、電動ベッドを配置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の居室入り口の工夫。目印のショーウィンドウや暖簾により、自室を確認。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ・中庭・畑また近郊の公園等を活用。お茶を飲んだり、散歩を楽しんでおられる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームありがとうは、開設して6年目となりました。周囲を自然に囲まれ季節を感じながら、ご利用者・ご家族との連携も深まり、共に親睦を図る取り組みも広がってきています。又、地域の中に徐々に受け入れられ、つながりやボランティアの力も定着してきています。今後も地域密着型の施設としてどうあるべきか、医療との連携・ターミナルケアのより良い取り組みを今後も課題としながら、進んでまいりたいと思います。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ありがとう (ユニット2)

評価年月日 2009年 10月 22日

記入年月日 2009年 9月 25日

記入者 代表/管理者 氏名 木之下 美恵

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	恵まれた環境を生かして全体理念である感動を生むケアの提供を目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パーソンセンタードケアの考え方を基盤に、リーダー・サブリーダーを中心に自覚してミーティング・カンファレンスが行われている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は各ユニット内で目に届きやすい位置に設置しており、社内誌を家族・各公共施設・地域住民の方々に配布・回覧している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方から農作物を頂いたり、開所以来の庭の手入れのボランティアの他、調理、傾聴ボランティア等も来てくださっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会夏祭り、近隣障害者施設夏祭り、月1回の公民館いきいきサロンに定期的に参加している。		隣接している小規模多機能施設と共同で、子供祭り・文化祭等、地域の方々に立ち寄っていただける機会を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所見学会を地域の要望により実施		突然の介護相談にも介護アドバイザーがいるため、助言・対応が可能である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、職員を含めご家族にも送付、運営推進会議でも報告している。		自己評価することで、自分たちの日々の対応を振り返る良い機会と捉えてゆきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方、ご家族から活発な意見を聞き、改善を行いながらサービスの向上を心がけている。		市役所の方の出席を毎回お願いしたり、地域の学校・保育所・派出所なども出席の依頼をしてゆきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターを通じて、市の援助内容を聞いたり、出来るだけ直接市役所に出向いていきたいと考えている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	経営者とその他に3名のケアマネがあり、研修に参加している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で問題を共有、ストレスの軽減を図り、虐待防止に努めている。		虐待の勉強会を定期的を開く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を口頭により説明し、納得される対応を心がけている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置している。面会時の聞き取りもしている。		定期的にご家族にアンケートをとって、ご意見を聞くようにする。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月生活状況・ありがとう通信をご家族に送付している。突発的な健康状態の変化については、その都度報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、各種行事などご家族参加の機会を作り、気軽に訪問していただける環境を心がけている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダーミーティング、ユニットミーティングを設け、職員の意見の抽出を図っている。		リーダーミーティングの他、随時各施設の管理者・代表者が集まって、意見交換の機会を増やしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の行動に合わせて、勤務時間帯を配慮している。利用者の状況変化、職員の急病に備え、職員を多く配置している。		状況に応じて、他部署のスタッフの応援もあり、利用者の要望に答えやすくなっている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間は常に交流し、関連施設相互の協力体制を整えている。		職員異動により、他部署でのグループホーム利用者への理解を増やし、システム連携を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度末、ありがとう学会にて発表。全国レベルの研修参加、海外研修(毎年1 - 2名)、GH学会発表(3 - 4名)、認知症ケア学会発表(2 - 3名)		OJTによるスタッフ育成の充実。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修により交流を図り、互いに相談対応できる関係維持に努めている。		スタッフ間交流事業として、スポーツ・イベント・編集・園芸、それぞれの各委員会を設けて活動し、親睦を深めている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	体調により年休利用、年間10 - 14日のリフレッシュ休暇、個人の状況に応じて他ユニット間・施設内異動も考慮している。		スタッフ休憩室改築予定。当施設内異動、個別面接を随時。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を推奨している。個人の状況により、個々に合った勤務場所をスタッフ本人と共に考え、安心して働き続ける事が出来る配慮をしている。		今年度、奨学金援助による看護師資格取得中。来年度も実施予定。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネ、御家族に直接面談、見学に来ていただき、本人との面接には2名スタッフでご訪問し、御本人の様子を十分聴く努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族の協力なくして本人を支援していくことは難しいという事を共有して、十分な話し合いを度々設けて対応を検討。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞いた上で費用等も説明。場合によっては特養・老健へ再検討をお話することもある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスからGHへのサービス利用を変更された利用者については、入所当初から時々デイサービスで過ごされ、なじみのスタッフにも声をかけていただいている。		やむを得ずサービスをいきなり開始する場合は、御家族と細かく連携をとりながら、無理のない声掛けと細かい配慮を工夫中。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの役割づくりを考えながら、その作業の中で共に泣き笑いできる関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を考え、共に本人を支える一員として相談できる関係に努めている。		当施設内外の夏祭りや、行事への参加を御家族に呼びかけて、一緒に楽しんでいる。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一泊・日帰り旅行、バーベキュー、外出等、全員又は個別で希望以外にも協力により実施。		旅行については、御家族も含め希望を聴取し、個別に対応している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の方々がゆっくり本人と過ごせるように別室もある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	声を掛け合って共に生活し、共同作業したりすることで、仲間意識が根付いている。		利用者同士の関係が適合しない方については、スタッフとの個別対応等、配慮している。利用者同士の相性等も配慮。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀のはがき送付、病院入院または施設入所で退所となった利用者様へのお見舞い・訪問を定期的に行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、御家族と個別に話をしている中で、何気ない一言、表情に気をとめながら、本人の思いを把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人・御家族・担当ケアマネ・主治医から情報をお聞きし、生活歴・アセスメントの作成(センター方式)。随時情報を頂き、加えている。親族・友人からの情報も貴重である。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の体調・心情の変化をスタッフが十分に観察し、一人一人その都度寄り添うよう対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	平素より本人の希望聴取に努め、家族と共に相談し、介護計画を作成・実施。		3ヶ月に1度、定期的に本人・御家族・スタッフ2人でカンファレンスを行い、モニタリング・計画作成をしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人(出来る方)・御家族・スタッフによりカンファレンスを実施し、同時に今までのモニタリングやそれを基に、介護計画を立てている。		状況に応じて、柔軟にプラン項目を変化させてゆく。御家族からの要望を聞き、出来る方には協力をお願いをして、家族と共に目標を達成する事もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は本人の生の声を記入するようにしている。いつもと違う状態の変化(良い事・あまりよくなかった事)に注意する事などは申し送りに記入して、職員に伝えている。		改善ケアプラン使用。アセスメントがその方の思いや生活史がより反映されるものができる。記録も記入しやすく、わかりやすくなった。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自社内、各種施設の利用。隣接デイサービスへの訪問		デイサービス・小規模多機能居宅介護との人的・物理的・システムの連携
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の園芸ボランティア、図書館等公共施設の利用等で支援している。		傾聴ボランティアさんが増え、利用者様に喜ばれている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	インフォーマルなサービスについて、関係者からの情報・助言を受けている。福祉用具(車椅子)自費レンタル中。訪問マッサージ・訪問歯科利用中。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになってもらい、ホームの取り組み状況を報告するとともに、アドバイスを受けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のみならず、本人・家族の納得した医師を選択できるよう配慮。		近隣の複数の医療機関より多大なる協力が得られ、いざという時の安心感につながっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃の暮らしぶりから、専門的な受診が必要であれば、御家族に相談して専門医受診を同伴にて行っている。		専門医と主治医との連携をとりながら、総合的に支援している。認知症について相談できる関係を築く。記録は個々の状況に合わせて、様式を変えている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職のほか、両ユニットに看護職が定期的に入り、日常の健康管理を行っている。		「グループホームでの医療について」という基盤を作成し、緊急時の対応についても御家族に個別に相談し、理解・協力をいただいている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	一ヶ月以内の退所に向けて、入院時より医師との連携を相互間で図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全員書面にて、御家族より希望を聴取。医師・家族・スタッフ同席のもと、納得のいく対応を考え、方針を決定している。		ターミナルケア研修への参加。ターミナルケアの振り返りを十分に行い、今後のよりよいお見送りに生かす。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師のパート雇用により、常勤看護師の応援を図っている。医師とも協議。ホーム内看護師不在時の点滴対応も協議し、マニュアルを作成した。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・御家族に別の転居可能な施設を紹介し、希望する複数の施設見学を行い、本人・御家族中心となって決定している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入浴・排泄等のプライバシーの確保等、十分な配慮をしている。職務上の守秘義務については、書面にて誓約書をとっている。シュレッターの使用。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の気持ちに寄り添う時間を大切にしている。自分で選択出来る場面づくりに気をつけている。</p>	<p>利用者様が充実した生活を送っていただけるよう、スタッフが知恵を出し合って新たな作業や楽しみを提案し、無理なくやりたいと思える事を増やしてゆきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人に精神負担とならない配慮の中で、それぞれの生活リズムを作っておられるので、それを支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>特に体調に問題がない限り、それぞれ理美容院へ外出支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人の能力に合わせて、食事作りの準備・片付け等を依頼している。</p>	<p>嚥下機能が低下しても、食事の形態を工夫し、見た目にもおいしそうなソフト食作りを考慮していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の体調に合わせて、本人好みの物を共に作ったり食べたりして、楽しむ機会を作っている。本人と共に買い物に出かけたりしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ様々な食品を考えながら、マッサージ、またそれぞれの排泄記録・管理により、日中出来るだけ布パンツ・パットの利用をしながら、トイレ誘導を行う。		体に負担をかけない排便薬の使用も併用している。 (随時、内服量は調節)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望により、午前・午後いつでも入浴可能としている。本人のタイミングにあわせている。しかし、介助を必要とする方には、スタッフ数が少ない時は入浴してもらえない時がある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状況により、午前中・午後からも各居室で、またはくつろげるスペースで、休息できる支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の特技の料理・裁縫等を依頼。畑の収穫、保存食・梅ジュース・らっきょう等手作り、また、抹茶の日、おやつの買い物等、自主的活動を依頼。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には自由に買い物をしてもらい、一定範囲での自己管理を支援。また、買い物に行き支払いを依頼している。。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭(テラス)での外気浴、外出等、頻繁に出来る限りの対応を心がけている。テラスが北と南にあり、外気浴が選べる。		今後も各所への季節を感じる外出・ドライブ・公園散歩・買い物等、続けてゆきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との旅行を毎年実施。本人の行きたい所への外出支援、本人・ご家族の希望を最優先して対応。		今年度中に、利用者様・ご家族参加のランチ宴会を計画。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の書中見舞い・年賀はがき作成をご家族に協力依頼。コードレスホンの使用により自室での電話対応も可能。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間規制はなく、和室、回想ルーム等、必要に応じて居室以外の部屋の利用も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。		勉強会の実施(DVD・参考資料)。言葉による拘束についても留意している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外施錠はしていない。必要があれば、SOSネットワークに登録・ご家族了解の上、交番・近隣スーパー等に写真入の連絡先を配布している。自由に外出出来、スタッフの見守り、同行により、安全を確保できるよう努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の居場所に留意し、スタッフ間で声を掛け合っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品管理について、手の届かない場所に置く等、十分な注意をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険度を把握し、色別のヒヤリハット用紙による事故報告の記入により、スタッフ全員で問題を共有。必要に応じて対策ミーティングを開催。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防署の職員により救命救急講習を実施している。AEDを各棟に設置。		定期的な救急講習会の実施。緊急時マニュアルを作成している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の家族。 スタッフ等の協力を依頼。		H21年度自主防災訓練では、近隣の住民の方にも消火訓練に参加していただいた。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	全ての危険因子を排除するのではなく、本人らしい生活を優先しながらリスク管理のもと支援している。常に説明をし、必要なものを購入している、		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・排泄・食事等日々の利用者の状態に気を配っている。異変に気付いたら、速やかに情報を共有し、主治医に相談している。(体調変化を密に正確に連絡したい場合は、長期にわたりFAX・写真にて状態報告)		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服中の利用者の体調を十分に把握するように努める。病院からのお薬情報を把握する。		内服拒否のある方にも、できるだけ理解を得られる言葉がけをしたり、アイス・オリゴ糖に混ぜて飲みやすくして支援している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖・寒天・ゼリー等、繊維食品や水分摂取をしていただくように根気よく援助している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	特に本人の拒否がない限り、口腔ケアを実施している。必要な時は、訪問歯科医のアドバイスを受けている。		毎食後の口腔ケア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を見ながら補助食品を利用したり、食べれるもの・好きなもので補給。水分もゼリー状にして随時補給。		摂取量・体調・嚥下状態に応じて、形態を変え、タイミングを見ながら介助している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルがある。感染症に関する資料を配備している。衣類の別洗浄や、除菌処理をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間時、台所用品の熱湯消毒と除菌。残食は持ち越さない。食器乾燥機の使用。冷蔵庫内の定期的なチェック。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場近くの出入り口に、案内板を提示している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁のディスプレイ。ウッドデッキの草花。庭の果樹。ボランティアさんによる季節の花生け。浴室の暖簾。ソファなどのよるくつろぎのスペース。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースを利用者さんのADL変化によって配置換えを検討し、混乱がおきない程度で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今まで使用してきたものを持参。本人のA D Lを考慮しながらくつろげるよう、環境作りをしている。畳部屋も有り。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高性能空気清浄機を2台設置。換気の随時実施。壁は吸臭作用・湿度調整出来る珪藻土使用。		エアコンの・換気扇のクリーニングを定期的の実施中
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを、廊下のみならず必要な居室にも、動線を考慮して配備している。必要な方には、電動ベッドを配置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の居室入り口の工夫。目印のショーウインドウや暖簾により、自室を確認。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキ・中庭・畑また近郊の公園等を活用。お茶を飲んだり、散歩を楽しんでおられる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームありがとうは、開設して6年目となりました。周囲を自然に囲まれ季節を感じながら、ご利用者・ご家族との連携も深まり、共に親睦を図る取り組みも広がってきています。又、地域の中に徐々に受け入れられ、つながりやボランティアの力も定着してきています。今後も地域密着型の施設としてどうあるべきか、医療との連携・ターミナルケアのより良い取り組みを今後も課題としながら、進んでまいりたいと思います。